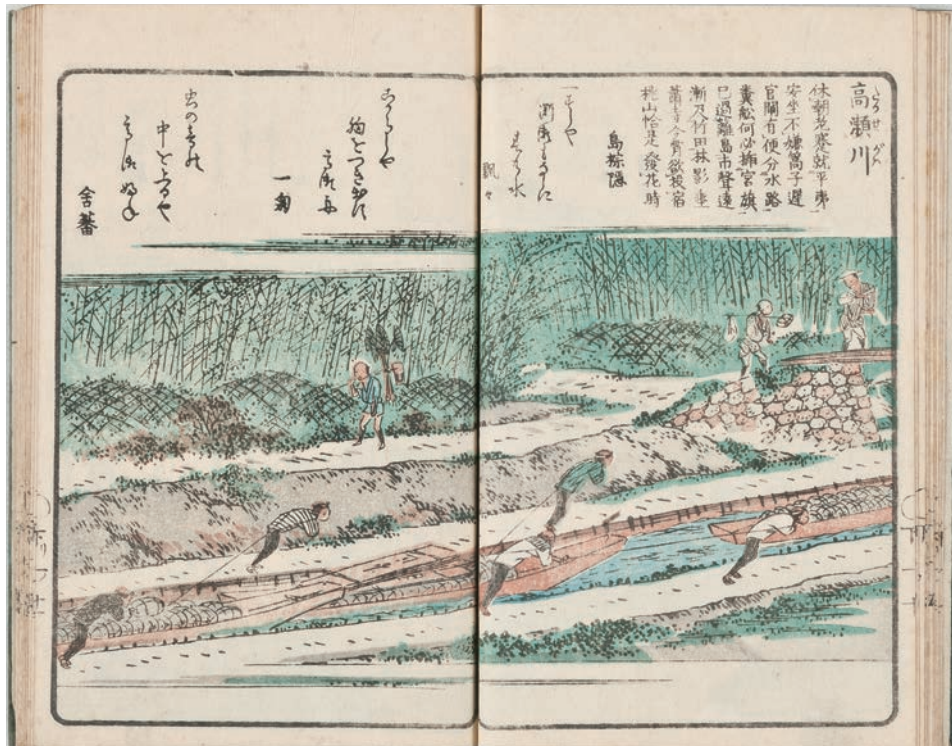




総合資料館だより

2014. 10. 1 No. 181

平成26年度企画展「高瀬川と京都の水運」



「高瀬川」（『淀川兩岸一覽』より）

京都府立総合資料館では、現在、「平成26年度企画展 高瀬川開削400年記念～高瀬川と京都の水運～」を開催しています。

慶長19（1614）年、角倉了以による高瀬川の開削工事が完成してから、今年でちょうど400年目となります。今回の展覧会では、高瀬川をはじめとする水運が京都の発展に果たした役割、歴史文化遺産としての運河を、当館の資料を用いてわかりやすく解説しています。

この絵は、竹田街道沿いの高瀬川で船曳に曳かれる高瀬舟を描いています。出典の『淀川兩岸一覽』は暁鐘成の編、松川半山の画により幕末に成立した大坂～京都間の案内記で、挿絵には多色刷りの美しい版画が用いられています。

皆様のご来場をお待ちしています。（6、7ページに展示資料の一部を紹介しています。）

目次	平成26年度企画展「高瀬川開削400年記念～高瀬川と京都の水運～」	1・6
	文献課の窓から 「叢書～体系化された知を活用しよう！～」	2
	歴史資料課の窓から 「東寺百合文書WEBに見える文書の数」	4
	最近の収集資料から（平成26年6月～8月）	8
	行事案内等	10
	友の会事務局から、利用案内	12

叢書 ～体系化された知を活用しよう！～

はじめに

叢書は出版の一形式です。装丁を一定に揃え、継続的に刊行されるのが特徴で、全集、選集、大系、集成、叢刊、ブックスなどの名称のものもあります。

内容は一人の著書を集めたもの、テーマに沿って多人数の著作を集めたもの、古典などの多くの書物を集めたものなど、さまざまです。

叢書は多くの資料や情報を収集し、体系化した非常に便利なツールです。また、一般に大部であるため、個人ではなかなか揃え難いものであり、図書館ならではの蔵書と言えるでしょう。

ここでは当館の人文・参考分野から、所蔵する叢書についていくつかをご紹介します。

① 群書類従 正編および続編 144冊

塙保己一／編纂 続群書類従完成会、国書刊行会 1906～1980

群書類従は古代から江戸初期までの歴史書や文学書など1277種を収めて25部門に分類したもので、当時の木版本で666冊からなります。

日本の叢書として空前の存在ですが、その成立や編纂者の生涯と学問的業績にも劇的なものがあります。

編纂者の塙保己一（延享3（1746）～文政4（1821））は、盲目の身ながら優れた記憶力を頼りに学問を修めた国学者として知られています。

塙は34歳の時、学問を志す人の助けになることを目指して全国に散逸した古典類を集めて編纂し、出版することを決意します。以来41年を費やして完成させ、その2年後に没しました。

正編666冊は天明6（1786）～文政2（1819）の34年間に出版され、続編や活字版は塙の没後、断続的に刊行されていきます。

また、塙が和学講談所を設けて編纂した「史料」約430巻が、明治に始まり今なお編纂と刊行が続く歴史叢書「大日本史料」（東京大学史料編纂所／編）の出発点と基礎になりました。

塙の業績は実に現代まで大きな影響を及ぼしているのです。

当館では「群書類従」「続群書類従」「続々群書類従」「新群書類従」を揃いで所蔵しています。

② 重宝記資料集成 全46巻

長友千代治／編 臨川書店 2004～2009

江戸・明治・大正・昭和各時代の日用実用書を集めたものです。一般庶民が日常生活の中で常用してきた事典であるため、生活史資料として貴重な文献です。

本集成では約200種を影印（※）し、13部門（下記①～⑬）に分類して解説を付しています。

内容の一部：（①日用事典）懐中重宝記（②往来物）書札調法記、文章指南調法記（③～⑩略）（⑪料理・食物）料理重法記（⑫遊芸・遊里）聞香重宝記（⑬明治以降）開化調宝記

③ 日本農書全集 全72巻

農山漁村文化協会 1978～1999

北海道から沖縄に及ぶ記録を網羅した近世農書の集大成です。原著の翻刻と現代語訳、解説・解題などを収載しています。

内容の一部：百姓作方年中行事（丹後／文化10）光福寺春耕図絵馬（京都市／天和2）耕作晰（陸奥／中村喜時／安永5）仕事割控（下総／遠藤伊兵衛／天保12）地方の聞書（紀伊／大畑才蔵／元禄年間）八重山嶋農務帳（琉球／富川親方／明治7）農業全書（宮崎安貞／元禄10）広益国産考（大蔵永常／安政6）

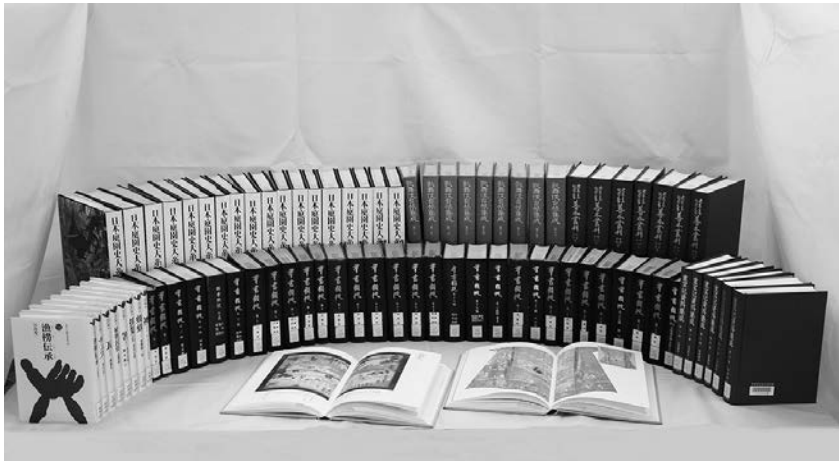
最後に、全巻を所蔵しているわけではありませんが、レファレンスでよく利用されるものをご紹介します。

『ものと人間の文化史』法政大学出版局1968～

人間の暮らしに関して、多くの著者がさまざま

なものや自然とのかかわりを掘り下げ、論究するシリーズです。

タイトルの一部：「狩猟」「からくり」「化粧」「番匠」「結び」「塩」「城」「竹」「絵馬」「機械」「石垣」「松」「釣針」「包み」「ものさし」「将棋」「神像」「蛇」「賭博」「箆」「秤」「ひも」「絹」「海女」「稲」



おわりに

本稿ではごく一部をご紹介しましたが、当館ではほかにも多種多様の叢書を所蔵しています。

(下表参照)

叢書という壮大な知の体系を編んでくれた先達のおかげで、今日私たちが受ける恩恵は計り知れないものがあります。

(文献課 人文・官庁資料担当)

※ 影印=書物を写真撮影し、製版印刷すること。またはそうしたもの。

<参考資料>

- ・『三大編纂物／群書類従・古事類苑・国書総目録／の出版文化史』熊田淳美著 勉誠出版 2009
- ・『重宝記の調方記』長友千代治著 臨川書店 2005
- ・「塙保己一史料館・温故学会HP」<<http://www.onkogakkai.com/>> 2014.8.23現在

当館所蔵 叢書一覧表(人文・参考分野中の一部) 書名／巻冊／(出版者)

古事類苑 全51冊 (吉川弘文館)	皇室制度史料 21冊 (吉川弘文館、宮内庁)
広文庫 全20冊 (広文庫刊行会)	日本経済大典 全56巻 (明治文献)
冷泉家時雨亭叢書 86巻 (朝日新聞社)	覚書終戦財政始末 全24巻 (大蔵財務協会)
大東急記念文庫善本叢刊 45冊 (五島美術館 大東急記念文庫)	三田村鳶魚全集 全28巻 (中央公論社)
尊経閣善本影印集成 57冊 (八木書店)	日本常民生活資料叢書 全24巻 (三一書房)
日本古典全集 全187冊 (日本古典全集刊行会)	民衆宗教史叢書 全32巻 (雄山閣)
貴重典籍叢書 40冊 (臨川書店)	戦史叢書 全102冊 (朝雲新聞社)
図書寮叢刊 80冊 (宮内庁書陵部ほか)	新収日本地震史料 全21冊 (日本電気協会ほか)
天理図書館善本叢書 138冊 (天理大学出版部)	近世歴史資料集成 全33冊 (科学書院)
社会問題資料叢書 100冊 (東洋文化社)	江戸科学古典叢書 全46冊 (恒和出版)
現代地方自治全集 全25冊 (ぎょうせい)	日本建築史基礎資料集成 14冊 (中央公論美術出版)
日本外交史 全38冊 (鹿島研究所出版会)	日本庭園史大系 全35巻 (社会思想社)
江戸町触集成 22巻 (塙書房)	日本林制史資料 全30巻 (臨川書店)
近代日本教育制度史料 全35巻 (講談社)	海事史料叢書 全30冊 (成山堂書店)
現代日本教育制度史料 63冊 (東京法令出版)	歌舞伎台帳集成 全45巻 (勉誠社)

東寺百合文書WEBに見える文書の数

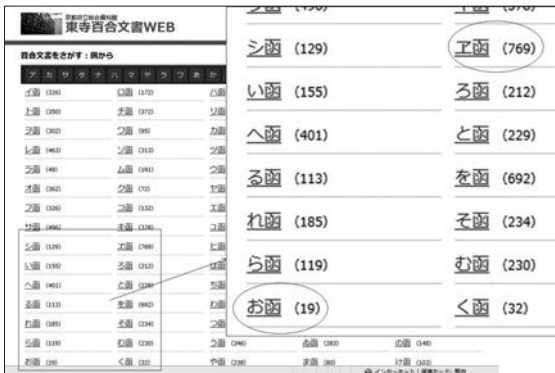
ユネスコ世界記憶遺産への登録に向けて日本ユネスコ国内委員会から推薦されている当館所蔵の東寺百合文書ですが、この春から、「東寺百合文書WEB」というウェブサイトで広くご覧いただけるようになりました。

今回の「歴史資料課の窓から」では、目に入っているはずなのになかなかその意味に気づいてもらえない地味な存在、文書の数についてご紹介します。

ウェブサイトのトップページ右上、「百合文書をさがす」という部分には、「函（はこ）から」、「和暦から」、「西暦から」、「詳細検索」とあります。



まず、「函から」をためてみましょう。東寺百合文書は加賀藩主前田綱紀公寄進の桐箱に納められて伝わりました。明治以降、文書を整理し目録をつくるときにも、この箱ごとの文書のまとまりを大事にしている、文書一つひとつには「イ函1号」のように、納められていた箱+番号という形式の文書番号がつけられていますので、「函から」文書をさがせることが大切なのです。



イ函、口函～とずらっと並んでいますが、函名の横、（ ）のなかに数字があります。これが文書の数で、お函のように19しかないものから、エ函のように769もあるものまでいろいろです。どの函にも均等に文書が入っていたわけではない、ということがわかります。

「和暦から」では、表示される年号の一覧から文書をさがすことができます。ここで注目していただきたいのは、左上にある「年号なし (7449)」というところ です。



すべての文書に年月日が書かれているわけではありません。月日があるだけの文書、あるいはまったく日付のない文書も7449と多数あることがわかります。このような文書がいつのものなのかを明らかにするには、書かれている内容を読み、時期がわかる他の文書の内容と比較検討しなくてはなりません。

「西暦から」を選んで、「～年から」というところをクリックすると、右側にその範囲内の年がずらっとでてきます。「一番古い文書は何ですか?」というお尋ねをよく受けますが、文書を西暦順にならべてみると簡単にわかります。一番古いものは763年の「讃岐国山田郡司牒案」です。



西暦の右にある数字、文書の数に着目すると、1200年代の半ばまでは多くは一桁で、0の年もあります。その後、多い年少ない年というゆれはありますが文書の数は増加して行きます。1300年代後期から1500年代前半までは100を超えることも珍しくなく、毎年文書がとても充実していることがわかります。しかし、1500年代後半以降は急激に文書が減っていき、江戸時代に入って

1401年 (75)	1402年 (91)	1403年 (72)	1404年 (121)	1405年 (67)
1406年 (95)	1407年 (94)	1408年 (133)	1409年 (72)	1410年 (108)
1411年 (117)	1412年 (89)	1413年 (234)	1414年 (61)	1415年 (52)
1416年 (47)	1417年 (42)	1418年 (41)	1419年 (81)	1420年 (70)
1421年 (50)	1422年 (60)	1423年 (45)	1424年 (73)	1425年 (67)
1426年 (88)	1427年 (75)	1428年 (124)	1429年 (72)	1430年 (71)
1431年 (64)	1432年 (71)	1433年 (47)	1434年 (89)	1435年 (79)
1436年 (46)	1437年 (85)	1438年 (105)	1439年 (351)	1440年 (89)
1441年 (67)	1442年 (58)	1443年 (71)	1444年 (126)	1445年 (119)
1446年 (84)	1447年 (78)	1448年 (73)	1449年 (129)	1450年 (131)
1451年 (69)	1452年 (141)	1453年 (116)	1454年 (108)	1455年 (133)
1456年 (204)	1457年 (200)	1458年 (138)	1459年 (133)	1460年 (131)

▲文書が充実している1400年代

細々と文書が残された後は、新しい文書が加えられることもなくなってしまいます。

データベースに出てくる数字というのは一見すると素っ気ないものですが、実はそこに長期間にわたり多数の文書が集積された東寺百合文書のダイナミックな姿があらわれているのです。

(歴史資料課 岡本 隆明)

1521年 (46)	1522年 (52)	1523年 (67)	1524年 (51)	1525年 (54)
1526年 (57)	1527年 (43)	1528年 (63)	1529年 (66)	1530年 (65)
1531年 (54)	1532年 (47)	1533年 (44)	1534年 (34)	1535年 (51)
1536年 (51)	1537年 (3)	1538年 (4)	1539年 (25)	1540年 (51)
1541年 (21)	1542年 (36)	1543年 (21)	1544年 (17)	1545年 (12)
1546年 (20)	1547年 (36)	1548年 (21)	1549年 (25)	1550年 (43)
1551年 (30)	1552年 (40)	1553年 (25)	1554年 (21)	1555年 (17)
1556年 (22)	1557年 (21)	1558年 (10)	1559年 (28)	1560年 (24)
1561年 (15)	1562年 (15)	1563年 (5)	1564年 (9)	1565年 (23)
1566年 (14)	1567年 (14)	1568年 (7)	1569年 (11)	1570年 (21)
1571年 (6)	1572年 (6)	1573年 (3)	1574年 (6)	1575年 (5)
1576年 (11)	1577年 (3)	1578年 (1)	1579年 (4)	1580年 (2)
1581年 (8)	1582年 (0)	1583年 (1)	1584年 (1)	1585年 (24)
1586年 (31)	1587年 (0)	1588年 (0)	1589年 (0)	1590年 (0)

▲文書が減っていく1500年代

文化資源情報ネットワーク会議 報告



平成26年8月8日(金)、ホテルセントノーム京都において文化資源情報ネットワーク会議を開催しました。

総合資料館は、創設以来、京都に関する数多くの図書資料・古文書・公文書・現物資料を収集・保存し、公開してきました。現在建設中の新総合資料館(仮称)では、この活動の飛躍的拡充が求められています。そこで、京都府内にある古文書や文化財など、それぞれの地域の歴史、社会や文化を知る手がかりになる貴重な資料全体を<文化資源>ととらえ直して、その所在情報のデータベース構築を目指して準備を進めることとしています。これには、地域の機関や人びとの<文化資源>の利活用の促進と、大規模災害に備えた資料の所在情報の共有という、二つのねらいがあります。今回の会議は、データベース構築に向けた第1回目の会議であり、各機関との協働体制を整えることを目的に開催しました。

会議には、府の文化環境部・教育委員会文化財保護課や府内市町村の文化財関係者、博物館・資料館関係者の方々が出席され、事業の概要説明の後、京丹後市教育委員会の小山さんと亀岡市文化資料館の上甲さんから事例を発表していただき、意見交換を行いました。意見交換では、個人情報取り扱いが取り上げられ、情報の共有と公開をめぐる活発な議論が行われた他、データベースでの目録フォーマットの作成や、災害に備えての目録情報の共有について話し合われました。しかし、「イメージが湧きにくい」「総合資料館が所蔵資料情報の発信の具体例を先ず示して欲しい」との要望も出され、これに答えていくことが総合資料館の当面の課題となりました。

平成26年度 企画展

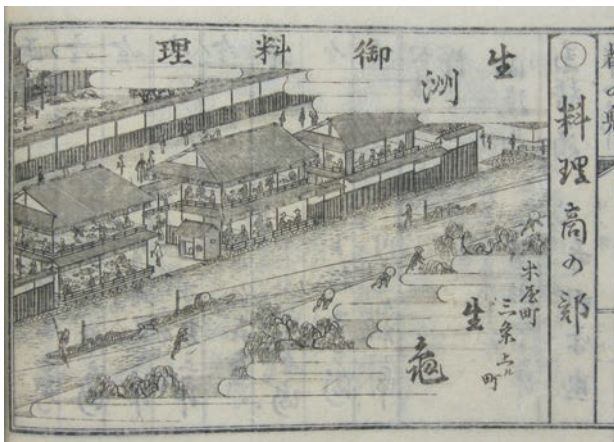
高瀬川開削400年記念～高瀬川と京都の水運～

今回の展覧会では、京都の水運の歴史を様々な角度から紹介しています。

海から遠い京都では、古代より、瀬戸内や奈良から淀川、木津川の水運を利用して人と物資が運びこまれました。さらに、物の運搬が盛んになった近世初期以降、高瀬川、西高瀬川、琵琶湖疏水、鴨川運河などが開かれ、京都の発展に寄与してきました。

これら水運の様子は、絵図や名所案内記などに多数記載されており、今回の展覧会でもご覧いただけます。ここでは展示品の中から当館ならではの資料をご紹介します。

『^{さきがけ}工商技術 都の魁』(石田有年編)



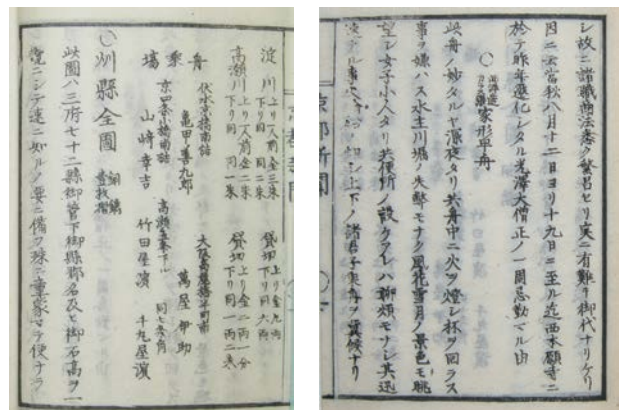
この書は、石田有年が銅版で彫刻編集し、実弟の石田才次郎(旭山)が、明治16(1883)年に出版印刷した、京都の商工案内本です。近代化のために殖産興業に取り組む中で、様々な業種の店舗が詳細に描かれています。

料理商の部に、高瀬川のほとりで繁盛している生亀という名の生洲料理屋が紹介されています。生洲は、『都名所圖會』にも登場しており、江戸時代から明治時代に至るまで人気を博していたことが窺えます。

『京都新聞』(西京新聞社)

これは、明治の初め頃に京都で発行されていた新聞です。

明治5(1872)年4月の記事では、同年3月に淀川と高瀬川に導入された屋形船の様子が報じられています。13日から開催された第一回京都博覧会の見物客を当て込んだもので、ガラス張りで眺めがよく、船内に便所も備えられていました。乗合料金は高瀬川の上りで金二朱、下りで一朱でした。貸切も可能でした。



『西川通船路新開図』(四方春翠画)

西川とは西高瀬川のことです。開削工事が始まった文久3(1863)年に出版された刷り物です。この絵図では、渡月橋付近から取水した西高瀬川が、四条通沿いに流れていることがわかります。



なお、この絵図を基にして、当時の名所図会や近代の古写真、現代の写真を見比べることが出来る『西高瀬川デジタル遊覧』も展示しています。



(黒川翠山撮影写真資料)



(現在)

▲例えば絵図中の「恋塚」をクリックすると、このように見比べることができます。

^{き づ が わ す じ か さ ぎ は ま う わ に ぶ ね か ぶ だ}
『木津川筋笠置浜上荷船株札』 (宮本守三家文書)

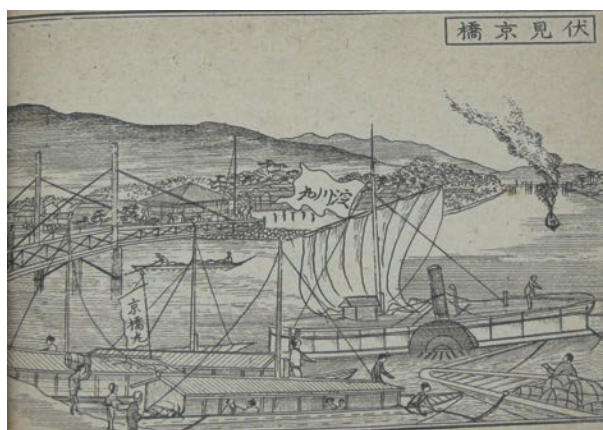
木津川の荷船の通航許可証で、文化9 (1812)年11月に船を改めた際に発行されたものです。「木角」と焼印が押されていますが、これは淀川、木津川の船奉行を務めた木村氏と角倉氏の頭文字をとっています。この許可証を持つ船は船奉行の管轄下にあることが証明され、川の通行税も免除されました。

木津川筋の^{いもあらい}一口、^{ほ ぜ}吐師、^{みかのほら}木津、加茂、^{うえに おね}瓶原、笠置の木津川六か浜は二十石積程度の上荷船を持ち、それぞれの浜から荷物を淀や伏見へと運送しました。



『京都名所案内圖會』 (石田旭山編)

明治になると淀川を往来する船にも文明開化の波が押し寄せ、近代的な蒸気船が伏見と大坂の間に就航します。船の形態としては、当時一般的であった外輪船が用いられ、水深の浅い箇所がある淀川の航行には適していたようです。



この絵は伏見京橋に停泊する外輪船を描いたものです。伏見大坂間の所要時間は、上りは6時間、下りは3時間を要したそうです。

『運送船部並遊船物貨調査簿』 (京都府行政文書)



蹴上インクライン番所における通船数・運送物貨数等の調査簿です。一覧表形式で、月日、船種、物貨種類、駄数、船主などが書かれています。疏水を通った船には遊船と三十石船とがあり、貨物として^{ぬか}醤油、^{もちごめ}糠、糯米、灰、砥石、酒粕、木材など、いろいろな物貨の運ばれていたことがわかります。

◆開催期間

平成26年9月13日(土)～10月12日(日)
 午前9時から午後4時30分まで。
 (休館日：10月8日(水))

◆会場

京都府立総合資料館2階 展示室(入場無料)



最近の収集資料から（平成26年6月～8月）



◆図書資料

〈京都〉

京都府立総合資料館開館50周年記念誌 1963-2013 京都府立総合資料館編刊 2014 112p

月読さんに逢いたくて 中嶋栄二著刊 2014 144p 寄贈

新編八坂神社文書 八坂神社文書編纂委員会編 臨川書店 2014 2冊 寄贈 内容：第1部 八坂神社文書 第2部 鴨脚家文書

建物疎開と都市防空 「非戦災都市」京都の戦中・戦後 川口朋子著 京都大学学術出版会 2014 4,308p (プリミエ・コレクション41)

洛北一乗寺 その暮らしの変化 中村治著 修学院学区郷土誌研究会編集 大阪公立大学共同出版会 2014 48p 寄贈

北山に入る日 京都北山の詩人・金久昌業のことば 北山クラブ編刊 2014 162p 図版5枚 寄贈

自然にいだかれて るんびに学園のあゆみ るんびに学園[編] るんびに苑 2014 40p 寄贈

平成24年8月13日・14日京都府南部地域豪雨災害記録集 宇治市市長公室危機管理室危機管理課[編] 宇治市 2014 78p

京都府改訂版レッドリスト 2013 京都府文化環境部環境・エネルギー局自然環境保全課編刊 2013 69p

栄西と建仁寺 特別展 東京国立博物館[ほか]編集 読売新聞社ほか 2014 332,16p 寄贈

〈人文〉

日本書誌学大系 103-2 増訂 青裳堂書店 2014 p551～1109 内容：103-2 新編蔵書印譜 中 タ-ワ 渡辺守邦・後藤憲二編

参考図書解説目録 2011-2013 日外アソシエーツ編刊 紀伊國屋書店(発売) 2014 11,869p

図書館とともに キハラ100年の歩み キハラ100周年記念誌編集委員会企画・編 キハラ 2014 289p 寄贈

博物館学年表 法令を中心に 椎名仙卓・青柳邦忠著 雄山閣 2014 2,250p

タブノキ 山形健介著 法政大学出版局 2014 13,293,9p (ものと人間の文化史 165)

よりすぐり国立国会図書館 デジタル公開資料から 国立国会図書館編刊 2014 139p 寄贈

アーカイブズの構造認識と編成記述 国文学研究資料館編 思文閣出版 2014 2,391,3p 寄贈

ボランティア白書 2014 「広がれボランティアの輪」連絡会議編 筒井書房 2014 3,263p 内容：2014 東日本大震災復興支援におけるボランティア・市民活動

神道思想史研究 高橋美由紀著 ぺりかん社 2013 488,12p

日本年号史大事典 所功編著 雄山閣 2014 806p

兼見卿記 第1・第2 新訂増補 吉田兼見著 金子拓校訂 八木書店古書出版部 2014 内容：第1 自元龜元年六月至天正九年九月 第

2 自天正十年正月至天正十二年十二月 (史料纂集 古記録編)

顕如・教如と一向一揆 信長・秀吉・本願寺
長浜市長浜城歴史博物館編刊 2013 118p 寄贈

近畿大風水害写真畫報 朝日新聞社編刊 1934
(ページ付なし) (週刊朝日臨時増刊) 寄贈

公卿補任図解総覧 大宝元年(701)～明治元年(1868) 坂田桂一著 所功監修 勉誠出版
2014 16,170,36p

皇室の名品 近代日本美術の粹 京都国立近代美術館・宮内庁三の丸尚蔵館・日本経済新聞社編集 日本経済新聞社 2013 336,23p 寄贈

世界遺産富士山 信仰の対象と芸術の源泉 富士山世界文化遺産登録推進両県合同会議編刊
2014 32,563,203p 寄贈

日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代 造像銘記篇 10 図版・解説 水野敬三郎編纂者代表
中央公論美術出版 2014 2冊

光の賛歌 | 印象派展 バリ、セーヌ、ノルマンディの水辺をたどる旅 五木田聡監修 東京富士美術館編刊 2013 198p

川瀬巴水展 郷愁の日本風景 川瀬巴水[作]
千葉市美術館編集 NHKサービスセンター編刊 2013 255p 寄贈

Remembrance 1-41 笹岡啓子著 KULA
2013 41冊

井戸茶碗 戦国武将が憧れたうつわ 根津美術館編刊 2013 171,15p 寄贈

〈官庁〉

国の施策及び予算に対する政策提案 平成27年度 京都府編刊 2014 131p

京都府統計書 平成24年 京都府政策企画部調査統計課編刊 2014 438p

支援者のための若年性認知症京都オレンジガイドブック 京都地域包括ケア推進機構認知症総合対策推進プロジェクト編 京都府健康福祉部高齢者支援課 2014 67p

わたしたちの市税 平成26年度 京都市行財政局税務部税制課編刊 2014 84p 寄贈

木津川市教育振興基本計画 生きる力をはぐくみ新しい時代を拓く“きづがわっ子”を目指して 木津川市教育委員会教育部学校教育課編 木津川市教育委員会 2014 102p 寄贈

原子力防災のしおり 南丹市版 京都府府民生活部防災・原子力安全課 南丹市総務部総務課編 京都府府民生活部防災・原子力安全課 南丹市総務部総務課 2014 24p 寄贈

中小企業白書2014年版 中小企業庁編 日経印刷 2014 777p

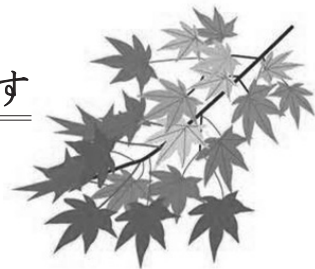
世界の厚生労働 2014 厚生労働省編 情報印刷刊 2014 508p

地域の資源を活かす再生可能エネルギー事業 環境エネルギー政策研究所編刊 2014 229p 寄贈

鐵道から家庭へ 鐵道院編刊 1919 105p 寄贈

日本の人口・世帯 国勢調査最終報告書 平成22年上・下巻 総務省統計局編刊 2014

平成26年度 古文書入門教室 を開催します



博物館や資料館の展示室、家の蔵の片隅で…。

くずし字で書かれた古文書を、自分で読んでみたいと思ったことはありませんか？

書かれた当時の空気や人びとの息づかいまで伝わってくるような古文書。

自由に読めるようになれば、もっともっと歴史がおもしろく感じられるようになるでしょう。

でもいったい何から始めたらいいのだろうか…？

そんな思いをお持ちの方も、たくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。

今回は、京都府立大学を会場に、これまで取り上げたことのなかった仮名について、

古文書から古典籍まで、歴史を交えて、当館職員がわかりやすくお話いたします。

本講座から、日本語の歴史への第一歩を垣間見てみませんか？

多数の皆様のご参加をお待ちしています。

●日 時 平成26年12月15日(月)、16日(火)、17日(水)
各日とも午後2時～4時 ※3日間通しての連続講座です

●講 師 土橋 誠(総合資料館職員)

●内 容 仮名文書と仮名典籍を読む

●会 場 京都府立大学 大学会館2階

●受 講 料 無料

●定 員 120名

●お申込み受付期間 平成26年11月4日(火)～14日(金) [当日消印有効]

●お申込み方法

- ・往復はがきに①住所、②氏名(ふりがな)、③電話番号、④これまでに古文書入門教室を受講した回数、をご記入の上、受付期間中に下記宛先までお申込みください。
- ・往復はがき以外でのお申込みは受け付けておりません。
- ・申込み者多数の場合は、はじめて受講される方を優先させていただきます(場合により当館において抽選を行うこともあります)。
- ・お申込みの方全員に、はがきの返信で受講の可否をお知らせいたします。
- ・今回お寄せいただいた個人情報、本講座の運営・管理以外の目的には使用いたしません。

●お申込み先・お問合せ先

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4

京都府立総合資料館 歴史資料課「古文書入門教室」係

TEL 075-723-4834

※会場には一般向け駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。

(特別なご事情がある方は、あらかじめご連絡ください)

※ なお本年度も、「歴史資料解説講座」の開催を予定しています。

内容が決まり次第、当館ホームページ、チラシ・ポスター、府民だより、資料館だより、当館メルマガなどでご案内する予定です。

地域の歴史を学び未来へ伝えるシンポジウム

～乙訓地域の史料を守り、伝える～

地域の歴史を学び未来へ伝えるシンポジウム（地域史シンポ）も今回で3回目となりました。今回は「乙訓地域」の各団体の方に御登壇いただきます。

日時 平成26年12月21日(日) 13:30～16:00 (13:00開場)

場所 向日市文化資料館2階

(〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40-1 Tel:075-931-1182)

参加 無料・事前申込不要

内容 第1部では、乙訓地域の歴史を探究し、広く伝える活動をされている団体の方に、その活動及び成果についてご報告をいただきます。これをもとに第2部では意見交換を行い、参加者相互のつながりを深める機会とします。

京都学へのいざない講座－京都力を探る－のお知らせ

総合資料館と京都府立大学では、国際京都学センターの開設に向け、「京都を1200年間持続させた力<京都力>とは何か」を探る連続講座を開催しています。3年目の今年度は「京のくらし」をテーマに次の4講座を開催します。

第1回 しょくじ 12月8日(月)

「京の節句料理」

講師 京都府立大学教授 大谷貴美子氏

第2回 すまい 1月13日(火) ※現地講座

「京洛中の酒蔵、蔵元のくらし」

講師 京都華頂大学教授 川島智生氏

第3回 まつり 1月29日(木)

「京都の『地蔵』信仰と地蔵盆」

講師 花園大学准教授 師茂樹氏

第4回 くらしかた 2月15日(日)

「京都のくらし－市中と郊外」

講師 京都造形芸術大学客員教授 五島邦治氏

第1, 3, 4回の会場は京都府立大学大学会館で、14時からです。申込不要です。

第2回(現地講座)のみ申込が必要です(定員40名 抽選)。

詳細については、チラシ、メールマガジン、ホームページ等でお知らせします。

10月～12月 行事カレンダー

- ◆9月13日(土)～10月12日(日) **企画展**「高瀬川開削400年記念～高瀬川と京都の水運～」
〈場所〉総合資料館2階展示室
- ◆10月26日(日) **百合講座**「中世会計史と百合文書」
〈講師〉三光寺由実子氏(和歌山大学経済学部准教授) 〈場所〉キャンパスプラザ京都 14時～
- 10月20日(月)～31日(金) 蔵書点検等のため休館
- ◆11月3日(月・祝) **シンポ** 国際京都学シンポジウム「都市と農村のロハスな関係」
〈場所〉京都府立大学 稲盛記念会館 13時15分～
- ◆11月13日(木)～12月25日(木)(予定) **資料紹介コーナー**「文人画～大雅・蕪村～」
〈場所〉総合資料館3階閲覧室
- ◆11月15日(土)～16日(日) **特別陳列**「ユネスコ世界記憶遺産候補 東寺百合文書」
〈場所〉総合資料館2階展示室
- ◆11月30日(日) **百合講座**「戦国時代、ヨーロッパと出会った頃の百合文書」
〈講師〉天野忠幸氏(関西大学非常勤講師) 〈場所〉キャンパスプラザ京都 14時～
- ◆12月8日(月) **いざない講座** 第1回「しょくじ」
〈講師〉大谷貴美子氏(京都府立大学教授) 〈場所〉京都府立大学大学会館 14時～
- ◆12月14日(日) **百合講座**「東寺の歴史と百合文書」
〈講師〉新見康子氏(東寺文化財保護課長) 〈場所〉京都府立大学第3講義室 14時～
- ◆12月15日(月)～17日(水) **古文書入門教室** 〈場所〉京都府立大学大学会館 14時～
- ◆12月21日(日) **シンポ** 地域の歴史を学び未来へ伝えるシンポジウム
〈場所〉向日市文化資料館2階ホール 13時30分～

友の会事務局から

今年、友の会結成50周年を迎えましたので、50周年の記念行事の開催を予定しています。
また、現地講座とバスによる見学会の開催は、秋に予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。

- ◆結成50周年記念行事(総合資料館 4階 講堂)
 - ・10月2日(木)午前11時30分～午後1時30分
 - ・総合資料館OB佐橋氏と井口顧問との対談ほか
 - ・午後2時～午後4時 平成26年度企画展記念講演会と同日開催
- ◆現地講座
 - ・10月14日(火)午前9時45分～午後1時
 - ・東寺(金堂・講堂、種智院、宝物館の見学、講話ほか)
- ◆見学会
 - ・11月20日(木)予定
 - ・滋賀県 佐川美術館ほか

○問合せ：庶務課 075-723-4831

古文書相談 歴史資料課 ☎ 075-723-4834

日誌(平成26年6月～8月)

- 6. 12 (木)「東寺百合文書」が日本ユネスコ国内委員会より世界記憶遺産登録候補として選定
- 7. 31 (木) 寺子屋講座「学ぼう!琵琶湖疏水」
- 8. 8 (金) 文化資源情報ネットワーク会議

利用案内

休館日 祝日法に規定する休日、毎月第2水曜日、資料整理期、年末年始(12月28日～1月4日)
〔10月～12月の休館日〕
10月8日(水)、13日(月・祝)、
10月20日(月)～31日(金)資料整理期
11月3日(月・祝)、12日(水)、24日(月・振)、
12月10日(水)、23日(火・祝)、
12月28日(日)～1月4日(日)年末年始休館
開館時間 午前9時～午後4時30分
交通 京都市営地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④、〔北8〕・北山駅下車
京都バス④⑤、④⑥・前萩町下車
ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

発行 京都府立総合資料館 〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4
京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991) TEL. 075-723-4831 FAX. 075-791-9466

○本誌に対するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

再生紙を使用しています。